
漆黒の裁き

神夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漆黒の裁き

【Nコード】

N0175Z

【作者名】

神夜

【あらすじ】

魔法が無い世界は、超能力開発に成功した。だが、超能力を犯罪に使う者が表れる。

主人公は、悪を裁く悪になる。

1話（前書き）

初投稿です

見て下さい

1話

空が黒く染まり、一つ一つ小さな煌めく星の下。
とあるビルの社長室の床に、水溜まりが出来ている。

そして、社長室の中に、一人の青年が居る。

何故青年が居るかはわからない、でも

その青年の視線の先には、身体中に銃弾を受けて死んで居る、このビルの社長の姿がある。

青年は、ドアの方に振り返り歩き出し青年は、ケータイを取り出し電話した。

青年「任務完了だ……………」

????『了解した』

短い会話が終わり、青年はビルを後にして家の近くの公園のベンチに座り、胸ポケから、「マルポロ」(タバコの種類)を取り出しタバコを口に加え火をつけた。

青年「ふうー うまいな」

煙を吐きながら空を眺めて、手を空に目掛けて掲げた。

青年「帰るか」

青年はタバコを捨て歩き出し、公園を後にした。

2話(前書き)

見てください

2話

朝、青年は高校の制服を身に纏い、テーブルの上に置いてある、

デザートイーグルを二丁持って腰につけたホルスターに入れた。

青年は、リュックを持って玄関に向かった

青年「行つてきます」

返事が聞こえない家を出て通学路を歩いて居ると、

????「Good morning」

青年「なんだ、勇希か」

勇希「なんだとはなんだ!!」

青年「別に」

下らない話をしながら歩いて居ると、学校に着いた。

下駄箱に靴を入れて上履きを取り出し、上履きを履いて教室に向かつて歩き出した。

今は、10月入学してから6ヶ月もたったのに、青年は誰とも話をしないで机に伏せて寝ていた。

青年「よく寝たな」

青年が起きた時にはもう、放課後になっていた。

青年は教室を出て下駄箱で靴に履き替えて歩き出した。

校庭の真ん中辺りで空を見上げたら、ズボンのポケットに入っているケータイがなった。

青年「はい……………」

「……………」仕事内容、赤波グループの赤波春樹が、超能力で薬物を透明化して密輸している。」

青年「能力は」

「……………」触れた物を一時的に透明化する事が出来る力だ」

青年「了解」……………」頼んだ」

電話を切ると、走り出した。走り出して5分経つと家についた。青年は家に入り、自分の部屋のクローゼットを開けて、中にある、真っ黒いロングコートを取り出した。

ブレザーを脱ぎ捨て、ロングコートを着た時、
チイリーン チイリーン
と、鈴の音が聞こえた。

青年の腰に鈴が三つついている。

青年は夜になるのを部屋の中でまった
趣味のエレキギターをひきながら。

8時になったと同時にギターを止めて、手袋をして家を出た。

10月の8時は結構暗くそして、冷えるこの時期

青年は目的地まで歩き、目的地の会社が見えてきた。

青年は会社の一階の窓を音がしないように破壊した。会社に侵入して向かった所は、「社長室」に向かい、社長室に静に侵入した。

社長「赤波春樹」は隣の部屋でテレビを見ていたため、バレずに侵入できた。

社長「赤波春樹」が椅子から立ち上がった。青年はベランダに行き、身を潜めていた。

赤波春樹「さて、仕事も終わったから帰って寝よう」

パソコンをバッグに入れて帰ろうとした時、

青年は、社長「赤波春樹」の後ろにつき、社長「赤波春樹」の口を左手で塞ぎ、喉元を右手で持っていたナイフで斬り裂いた。

社長「赤波春樹」は即死

床に敷いてある、グレーのカーペットは血がつき、赤黒く変色していた。

青年は、死体を眺めながら呟いた

青年「自分が犯した罪を……死んで償え……」

青年は何事も無かった様に会社を後にし家に帰った。

3話

家に帰り、ソファアに座り銃とナイフを取り出してテーブルの上に置いた。

青年は、ケータイを取り出し電話した

青年「任務完了」

??? 『了解、報酬は振り込んだ』

短い会話をして電話を切ってテーブルに置いた。

青年は、ソファアの隣にある引き出しの中から、睡眠薬を取り出して、薬を二粒出して飲んだ。

少しして、青年の意識は闇の中に消えた。

日が昇り、朝になった。

青年は、ソファアから立ち上がり、洗面所に歩き、顔を洗った。

青年は部屋に行き、制服に着替えて、テーブルの上の、デザートイーグル二丁を腰に付いているホルスターに入れた。

青年「弾が少ないな……」

テーブルの下にある箱をテーブルの上置き、箱を開け、中から50AE弾が入っている、マガジン弾倉を取り出して、制服の胸ポケットに入れた。

青年は、ソファから立ち上がり、リュックを背負って玄関に行き家を出た。

少し歩いて町の景色を見ると、学校についた、そして、いつもの様に自分の席で寝た。

学校が終わり、青年は先生に叩き起こされ、家に帰る準備をしていると、

ズボンに入れた携帯が鳴りだし電話に出た。

青年「はい」

??? 『お前の家に何者かが、侵入した。 以上だ』

相手は、要件だけ伝えて電話を切った。

青年（侵入者か……）

青年は携帯をズボンにしまい、学校を後にした。

空は少し黒く、風は肌寒く、もう季節の変わり目を感じながら歩いていると、家についてしまった。

青年「ただいま」

返事がしない家に入り、ソファに座った。

そして、青年は誰かに話す様に独り事をいった。

青年「目的は、俺だな……出てこいよ……俺はここに居るぜ」

呟くと、頭に銃の先端を突き付けられた。

????「貴方が、黒神 紅夜であつてる?。」

声からして、女性。

紅夜「あつてるぜ」

????「私は、貴方を殺したいけど、父が密売してたから、悪いのは父だから貴方を殺さない」

紅夜「殺したいなら、殺せばいい、俺が死んだら俺はそこまでの人間だった。ただそれだけの事だ」

????「……どうして」

紅夜「なにが」

女性は、泣きながら青年の前に来て、胸ぐらを掴んで、叫んだ。

????「どうして命を粗末に扱えるの!? 貴方が死んだら悲しむ人が居るんだよ!」

無表情のまま、泣いてる女性を見て、言い放った。

紅夜「俺には悲しむ奴なんて存在しないから、だから俺は、暗殺者をしてるんだぜ……」

女性は驚き、尋ねた

「????」「家族は?」

紅夜「居ない、俺が3歳の時に死んだ」

女性は胸ぐらを掴んでた手を話し、青年を見ながら喋った。

「????」「だから、死んでもいいの?まだ楽しい事だつてあるよ?」

紅夜「死等いつも覚悟してる。仇や復讐、俺を殺す理由なら沢山ある」

「????」「そう……………」

女性は、泣きながら歩き出し、家を出た。
家の前に車が有るとは知らずに

女性が帰って5、6分経った時、テーブルの上に置いた携帯が鳴った

紅夜「はい」

「????」「大変だ!!歌奈が、拐われた!!」

紅夜「歌奈って誰だ、勇希」

勇希「(紅夜は憶えてねえんだっただ!!)いや気にするな。仕事内容、拐われた女性を助ける事。」

紅夜「何処に居る」

勇希「山にある廃校だ、敵の数は……………約20人だ」

紅夜「了解」

電話を切り、二階の部屋に行き黒いワイシャツに着替え、その上から黒いロングコートを纏った。

部屋の中にある、大きな箱を開け中から、スモークグレネードを2個スタングレネードを1個

・50AE弾が入った^{マガジン}弾倉を6個取り出した。

^{マガジン}弾倉は、コートの内ポケットに順番に入れグレネードは、腰にぶら下げた。

紅夜「行くか……………」

紅夜は、家を出て、目的地である廃校を目指して歩き出した。

歩いて、10分程したら、廃校についた。

紅夜「ここが、廃校」

廃校の入り口に入り、足音をたてずに、歩き出した。

後ろの方から、誰かが向かって来て居るのに気が付いて、廃校の一つの元教室に身を潜めた。

男A「あの女、可愛いよな」

男B「俺等で遊ぶか？」

男A「良いねえーそれ」

下品な会話をしている二人が教室の前を過ぎた時、紅夜は、袖口に隠してたナイフを二つ取り出して男共目掛けて投げた。

ナイフは真っ直ぐ飛び、首に突き刺さって、男共が倒れ地面に赤い水溜まりができた。

紅夜「人質は、返して貰う」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0175z/>

漆黒の裁き

2011年12月11日23時00分発行